

提 案 概 要

実施期日	8月1日(金)
部会名	中学校 音楽部会

1 提案テーマ 日本伝統音楽に関する題材・教材の開発や指導の工夫 ～誰でもとりくめる「能」の授業～

2 単元(題材) 能『羽衣』(中学生の音楽2・3下/教育芸術社)

3 学年 第3学年

4 平成25・26年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

②創意工夫して表現(歌唱、器楽、創作)する力や幅広く主体的に鑑賞する力を育成する学習指導の工夫
・和楽器の表現活動や伝統的な歌唱を含んだ、我が国や郷土の伝統音楽に関する題材・教材の開発や指導の工夫

5 学習指導要領との関連(内容項目)

第2章 第5節 音楽 第2 各学年の目標及び内容[第2学年及び第3学年] 2 内容 B 鑑賞(1)

イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連付けて理解して、鑑賞すること。

ウ 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。

6 実践に向けての課題意識

音楽科教員の専門は様々だが、邦楽専門の同僚はおらず、特に「能」を扱うことは、未知の分野への挑戦に等しい。しかし、日本の伝統音楽とその背景となる文化を知ることは、今後国際社会での活躍が期待される子どもたちにとって必要不可欠である。ここで能を取り上げるのは「西洋のオペラに通ずる総合芸術としての魅力」と「日本の誇るべき美意識が凝縮された世界観」に触れることが、子どもたちにとって大きな宝になると信じるからである。

私たち市学校教育研究会中学校音楽部会のメンバーは、平成24～25年度にかけて鎌倉能舞台にて小鼓・太鼓・能管・謡の実技研修を積むチャンスを得た。しかしその体験を即授業に生かすことは難しいと感じたため、私たちが生徒の立場となって専門家に授業をしていただき、その時の感触などを参考に部会のメンバーが各自授業を組み立てることにした。この過程で、私たちの中にあつた能についての「地味」「難しい」という先入観が薄れていき、「面」の角度を僅かに変えることで生まれる表情や、「型」に込められた感情の表現に魅力を感じるようになった。

能の専門家が直接生徒に指導する授業や、「総合的な学習の時間」と関連付けた授業を私たちは知ってはいるが、敢えて目指したのは「誰でも取り組める」授業である。研究・実践を進めていくにつれて、身近にある教材や資料を活用することにとどまらず、「こんな教材があつたら」という思いが湧き上がってきた。

7 実践の概要

○指導方法の工夫

- ・導入の段階では予備知識等を与えず、聴く・観る活動から「羽衣」という作品を感じ取らせることとした。
- ・鑑賞活動に深まりをもたせるために、グループで「謡」を模して声を出す活動を取り入れた。

○評価の工夫

- ・学習内容を事前に知らせ、目的意識を持って授業に臨ませることができた(「まなびのプラン配付」)。
- ・生徒各自の気づきをワークシートに記述させた。
- ・生徒同士の相互評価を取り入れた。

8 成果と課題

(成) 今までより踏み込んで「能」の授業に取り組むことができたこと。

(成) 「謡」を技能として捉えず、関心を持って鑑賞を深めるための手立てとして活用したこと。

(成) 生徒の興味・関心を引き出し、「能」を身近に感じさせることができたこと。

(課) 音楽科の年間授業時数や、他の教材・領域とのバランスを考えると2時間扱いが限度。その中でいかに密度の濃い授業を展開するか。

9 予想される協議の柱

○生徒が意欲をもって学習活動に取り組むための指導のあり方について(仕掛け、働きかけ、アイデア等)

- ・各地区・各学校の「能」の授業への取組はどのようになっているか。
- ・日本音楽の「鑑賞」と「表現」をどのように関連付けているか。
- ・「生」の日本音楽に触れさせる機会をどのように設けているか。